

## スポーツパフォーマンス研究への投稿にむけてのヒント

### 趣旨

「スポーツパフォーマンス研究」は 2009 年の発刊から 10 年を超えました。毎年順調に論文が投稿され、1 年あたりおよそ 20-30 編程度の論文が掲載されています。様々な学会に参加すると、そのシンポジウムなどで本誌が取り上げられることもありますし、他誌の論文において引用されることも増えてまいりました。本誌の認知度は着実に増していると考えています。

一方, Editorial 2019 (<http://sports-performance.jp/editorial2019/chapt1.pdf>)でも述べましたが、投稿されてくる論文や査読に関する疑問や課題も表出していることも事実です。

そこで Editorial2020 においては、読者の方々へのメッセージとして、編集委員の先生方から、「(皆さんには)こういう論文をスポーツパフォーマンス研究に投稿してほしい」または「(私は)こういう論文をスポーツパフォーマンス研究に投稿したい(しようと思っている)」という内容で、自由に論じていただくこととしました。読者の皆さんには、様々なバックグラウンドをもつそれぞれの編集委員からのメッセージを感じていただき、スポーツパフォーマンス研究への投稿を考える上でのヒントになれば幸いです。

2020 年 2 月

スポーツパフォーマンス研究編集委員長  
高橋仁大

### 著者 (abc 順、敬称略)

* 榮樂洋光	* 濱田幸二	* 金谷麻理子	* 金高宏文	* 水谷未来
* 中島 一	* 中本浩輝	* 杉山佳生	* 高橋仁大	* 竹中健太郎